

教員名	足立 真理子 (Adachi Mariko)
所 属	人間文化研究科ジェンダー学際研究専攻ジェンダー論講座
学 位	経済学修士 (東京大学経済学博士号受理審議中)
職 名	助教授
URL / E-mail	adachi3@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

グローバリゼーション / ジェンダー / 制度進化 / アジアにおける高齢化 / ケア・エコノミー

◆主要業績

- ・足立真理子「再生産領域のグローバル化と世帯組織保持 (householding)」 F-GENS ジャーナル No. 7 (お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム ジェンダー研究のフロンティア) 2007 年 3 月 pp.63-67.
- ・足立真理子「新たな経験的領域としての「人口」の問題」小幡道昭・青才高志・清水敦編 『現代経済理論研究—伊藤誠教授古希記念論文集』御茶の水書房 2007 年
- ・翻訳：足立真理子「第 9 章 G.Hewitson 新古典派経済学における性別化された身体の否認」 『経済学と知—ポスト／モダン・合理性・フェミニズム・贈与』御茶の水書房 2007 年
- ・翻訳：足立真理子「第 11 章 J.Nelson フェミニスト経済学—客観的, 活動家的, そしてポストモダン」 『経済学と知—ポスト／モダン・合理性・フェミニズム・贈与』御茶の水書房 2007 年

◆研究内容

1. 現代のグローバリゼーションの最新局面にたいするジェンダー分析の結果として、再生産領域のグローバル化が重要であり、とりわけアジア諸地域における低出生率化、高齢化の進行はケア労働の国際的連鎖を形成している。このなかで、従来予想されていた近代家族の解体による個人化の進行ではなく、むしろ国際的に拡大する世帯組織保持が生じていることを指摘している。

2. 1 で扱った現状分析の視点を、新たな経験的領域における「人口」問題の、現代経済学の理論的課題として論じている。

3. 70 年代以降に欧米において「国際フェミニスト経済学会：IAFFE」が成立しており、経済学とジェンダーに関する理論研究が発展した。そこでの代表的な論者の研究論文を紹介しその意味を論じている。

◆教育内容

1 学部

「ジェンダー論」においては、社会科学の基礎知識を習得することを目的とし、ジェンダー概念の成立史、労働論、労働市場論、生涯賃金、社会保障制度 (年金、保険) についての概論をおこなっている。

「コア・クラスター」の提供科目として「ケア・エコノミー論」を担当しており、現代日本の高齢化問題、介護保険の制度、仕組み、実践的な課題について、専門家のゲスト (行政職員など) を招いて具体的な話を聞きつつ学習を進めている。

2. 大学院

博士前期過程：「開発経済学」「ジェンダー社会経済学」では開発経済学の基本的理論の学習を行い、ジェンダーと開発に関わるトピックの扱い方・方法、たとえばアジアにおけるマイクロ・ファイナンスなどの具体的な事例に関して理解を深める。

博士後期過程：A.Sen などの理論をとりあげ、国際分業における世帯組織や労働市場のあり方を検討し、国際的に影響力をもつ国連、UNDP などのジェンダー関連機関の動向について把握したうえで、今後の課題を考察する。

◆共同研究例

- ・シンガポール国立大学（NUS）「高齢社会のジェンダー配置移住とケア労働者—日本とシンガポールの比較研究」

◆共同研究可能テーマ

- ・アジアにおける高齢化と介護保険制度の比較研究
- ・アジアにおけるケア労働の国際的移転
- ・グローバル化と再生産—代理母問題とは何か

◆将来の研究計画・研究の展望

・今日、再生産領域のグローバル化は極めて重要な課題となっている。アジア地域では、90年代を通してケア労働の国際的移転が進展しており、シンガポール、台湾などでは外国人による高齢者ケアが恒常化している。日本においても2006年についてフィリピンからの看護・介護労働者受け入れを認め現在検討中である。その一方で、国内介護事業、介護保険制度は多くの問題を含んである。この問題を、たんに日本国内問題としてではなくアジアにおける課題としてどのように把握するかは、今後必ず研究されねばならないと考えている。

◆受験生等へのメッセージ

グローバリゼーションの動きは、多国籍企業などの経済組織がジェンダーや民族・人種、国籍、世代などの多様な性格の労働をどのように充当するかに関与しています。同時に、ジェンダーの問題はその地域や文化的多様性を併せ持ち、それらが経済問題としてのジェンダーの課題を生み出すという入れ子構造を形成しています。こうした事柄に関心を持ち、独自の構想力を養って問題を捉え、思考して行ってほしいと思っています。